

## 資料1 映画『主戦場』上映取り止め問題の経過

2019年

4月20日 『主戦場』一般公開開始

5月30日 藤岡氏らが記者会見。『主戦場』を糾弾。

6月8日 2019年度の映画祭の上映候補作品を内部投票（未鑑賞者も含む）により選出。『主戦場』は7位となり、候補作としての議論がプログラムセクションの市民スタッフ（以下、プログラムメンバーと記載）で始まる。

6月10日 映画祭内の作品担当者が配給会社「東風」に最初の連絡。上映に向けた問い合わせが始まる。

6月19日 藤岡氏ら5名が上映差し止めや損害賠償などを求め、ミキ・デザキ監督と配給会社を提訴

7月3日 東風から当映画祭に公共施設上映への抗議の状況や提訴に関する情報が提供される。

7月15日 川崎市 市民文化振興室担当者に『主戦場』を上映予定であることと、上記の情報を電話で伝える。

以後、川崎市から度々、作品選出プロセスなどに関する情報提供を求められるが、上映見直し等の要請は無かった。この前後、運営委員会（映画祭代表、副代表を含む5名で構成）のメールの中で下記の話が交わされていたが、他のスタッフへの共有はなかった。

- ・「市に作品のリスク等を説明すること自体が『こちらから検閲してください』と言っているようなもの。多くのスタッフが上映を希望している以上、その意向を最大限尊重すべき」
- ・「市に説明してから上映するつもりなら、そもそも上映をやめておけばよい」
- ・「市の担当者には口頭で伝え、その反応を見て“忖度”するしかない」
- ・「いざ上映発表した後に、事務局に対応処理が集中すると我々の規模の団体は機能麻痺する恐れがある」
- ・「双方の担当者レベルで話が済まないのであれば、こちらから話を取り下げるようにしていただきたい。でないと、来年度以降の運営に支障をきたす」

8月3日 あいちトリエンナーレ 2019 企画展「表現の不自由展・その後」中止発表

8月5日 午前：東風に対し正式な上映申込書をメールで送付し、ミキ・デザキ監督の登壇を要請。

午後：市から上映に対する懸念を伝える電話が入る。（“「訴えられる可能性がある作品を上映することに関して、いかがなものか」と局長より言われた”という担当係長からの電話）その直後に映画祭事務局スタッフから東風に対して電話で事情を説明し、上映申込手続きの保留を依頼。

8月6日 市の担当者2名が映画祭事務局を来訪し、口頭で上映への懸念を伝える。事務局スタッフ2名で対応。同日市の担当者から映画祭に対して「懸念」を示したことを市長へ報告。市長追認。（11/5市長会見記録より（脚注1））

8月7日 未明：事務局スタッフからプログラムメンバーと運営委員会に、市の担当者の話を共有。市の担当者の話の概要は(事務局スタッフの当日のメモに基づく)次のとおり。

- ・懸念は市民文化局の上層部の意見として伝えられた。
- ・「作品の出演者が上映差し止めを求めている作品を、決着がつかない段階で、共催者として市の名前が出て、上映することは厳しい（映画の内容云々ではない）」
- ・「訴えられている側（監督・配給）、訴えている側（出演者等）のどちらにも与したくない」
- ・「市と映画祭は”共催”なので、対等な立場。市も意見をいう権利がある」
- ・「共催なので、補助金や助成金ではないので、“映画祭単体で責任をとる”ことはできない」
- ・「市としては、出演者から訴訟を受けるリスクは負えない」
- ・「映画祭でなく、スタッフの自主上映であれば問題ない」

これを受けて、プログラムメンバーからは約一日かけて意見が出され、その意見は運営委員会に共有された。その中には上映に向けての具体的な備えるべきポイントに関する意見も出ていた。

8月7日 未明：映画祭代表の意見が運営委員会内に共有される。

- ・問題が政治問題化している以上、映画の内容そのもの、上映に懸ける我々の熱意、周到な対策を論じて市には通用しない。市の一部局ではなく相手は市と考えなくてはいけない案件となった。

- ・「主戦場」の上映は2つの理由から見送るべきと考える。

1…上映をめぐる問い合わせなどに事務局が対応している余裕はない。少なくとも訴訟を起こしている個々の背景にある団体の規模を考えると、我々は機能不全に追いやられる可能性がある。

2…1に異を唱える者は、我々に対する市の助成金の拠出についても異を唱えるであろうし、市は当然対応を迫られるだろう。先々の市との関係にはマイナスしか考えられない。我々の団体のリスクヘッジを考えるべき。

早朝：副代表の意見がメールで運営委員会内に共有される。

この作品を上映することによって、映画祭の今後の開催（継続）が危ぶまれる事態に追い込まれることは、避けたい。映画祭の開催と継続という立場から市へは迅速な対応が必要だと思う。映画祭にとってマイナスとなるイメージは避けたい。負担金削減に結びつくようなことは避けたい。さらには、全スタッフの意見集約はしない考えも出されていた。

映画祭代表は、運営委員会のうち1名と電話で協議、次いで川崎市に電話し、「個人的には取り下げは、やむなしと考えている」と伝える。

8月9日 夜：運営委員会とプログラムセッションが会議。

プログラムメンバーからは「川崎市からは文書でもらうべき」「説明を全スタッフにするべき」という意見がほとんどであったが、「共催者から言われたのだから取り下げ」という意見のほ

か、「自主上映へ切り替える」という意見が出されていた。

8月17日 全体会で、出席した市民スタッフに映画祭代表から説明。

プログラムメンバー以外は経過を知らされていなかったため、驚きの声相次ぐ。※当日欠席したスタッフの中には、詳細を知ったのは後日、映画祭期間中の一連の報道がきっかけだというスタッフも少なくない。

8月20日 川崎市市民文化局へ映画祭代表・副代表、事務局スタッフ2名で訪問。

市から訴訟中の作品上映は不適切と伝えられる。自主上映なら良いとも伝えられる。その後も、運営委員会を中心に検討され、最終的に運営委員会で上映取り止めに決定。

8月29日 映画祭代表・事務局スタッフ2名・映画祭内の作品担当者が東風へ。

代表・事務局から経過説明を受けた後、東風から文化局へかけあう旨の話があった。警備についても東風から紹介できること、弁護士も紹介できることが話されたが、映画祭からは「上映取り止め」の方向性のみ伝えた。

9月11日 東風への「上映取り止め」書類（運営委員会作成）の投函（脚注2）。これ以降、市民スタッフにも映画祭期間中の上映に向けた具体的な行動はなし。

10月24日 朝日新聞デジタル及び翌日の朝日新聞朝刊で上映中止に関する報道。以後、マスメディアで「表現の自由」の侵害として大きく取り上げられる。

10月27日 第25回 KAWASAKI しんゆり映画祭 2019 開幕。

映画祭代表名で「『主戦場』上映見送りについて」の釈明文書をホームページにて発表

10月28日 白石和彌氏、井上淳一氏、若松プロダクションが上映中止に抗議して映画祭への出品停止を発表。映画祭に登壇した是枝裕和氏、井浦新氏からも批判が相次ぐ。

10月29日 映画祭は、この問題に関する「オープンマイクイベント」開催を発表。

10月30日 オープンマイクイベントを実施し、3時間にわたる。

上映中止に対する厳しい批判を受け、映画祭代表が期限は明示せず上映努力を約束。

10月31日 全体会を、その日の上映最終回開始後に行い意見集約。

スタッフからはおおむね「上映賛成」（映画祭期間中ではなく、後夜祭的な後日上映の位置づけも含む）の意見が出され、すべてのスタッフ投票で決めることとした。

映画祭ホームページ、SNSで「上映実現にむけて前向きに協議しています。決定次第、またお知らせします」という旨を発表。

11月1日 全体会にて意見集約と投票。スタッフ約60名のうち「映画祭期間中に上映を行う」という意見多数により映画祭本祭期間内の上映を再決定。

警備ボランティアの募集や、上映時間帯・運営等について、深夜まで協議。

11月2日 映画祭最終日11月4日に『主戦場』を上映することを発表。

当日の運営方法や警備ボランティア募集方法について、市民スタッフ、事務局スタッフ、会場である川崎市アートセンターのスタッフ、関係者と協議し実現を具体化させていった。11月3日長時間の抗議電話が複数あり、「ガソリンをまいて火をつける」という脅迫電話が一件。神奈川県警に通報。麻生署は川崎市アートセンターを警備。

11月4日 抽選形式でのチケット配布により『主戦場』上映（定員の3倍近い鑑賞希望者）『主戦場』訴訟の原告である藤岡氏が劇場を訪れ、舞台挨拶への登壇を求めるも、警備ボランティアの協力等により、入場できなかった。上映前には、『主戦場』監督のミキ・デザキ氏が「日本の表現の自由の大勝利」とスピーチ。なお、日本映画大学新百合ヶ丘校舎において、同大学ドキュメンタリーコースの特別公開授業（映画「主戦場」の上映と公開シンポジウム）も行われた。

11月21日 KAWASAKI アーツ理事会開催

12月16日 KAWASAKI アーツ理事会開催。映画祭代表・運営委員の辞任（運営委員会の解体）を決定

12月22日 全体会を開催。市民スタッフ・映画祭代表・運営委員が参加し、代表・運営委員の辞任と準備委員会の発足等の報告。市民スタッフで以後の映画祭運営についての意見交換を行った

12月31日 KAWASAKI アーツ理事会での検証を踏まえた中間総括的文書を、「理事会からのお知らせ」として発表。

脚注：

1. 11/5 市長会見記録の中、p.7～16 参照

<http://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000111/111665/191105-1.pdf>

2. 東風は、9月末までに川崎市・共催団体に対して「上映中止撤回」を呼びかけていた（『主戦場』Facebookに撤回要請文書の掲載あり）